

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第2回所沢市男女共同参画審議会
開 催 日 時	令和6年2月9日(金) 午後3時30分から午後5時20分まで
開 催 場 所	所沢市男女共同参画推進センターふらっと 会議室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	
議 題	1 議事 (1) 「評価指標による評価結果」を踏まえての市の対応について(報告) (2) 第4次所沢市男女共同参画計画の中間見直しについて (3) その他
会 議 資 料	資料1 第4次所沢市男女共同参画計画 評価指標による評価結果への対応 資料2 第4次所沢市男女共同参画計画中間見直しの概要 資料3 第4次男女共同参画計画中間見直しスケジュール 資料4 第4次所沢市男女共同参画計画(素々案)
担 当 部 課 名	経営企画部企画総務課男女共同参画室 電話 04(2998)9150 <出席者> 経営企画部 鈴木部長、柳田次長、企画総務課 奥井課長、 企画総務課男女共同参画室 小川室長、関根主査、中村主任、 男女共同参画推進センターふらっと 栗原所長、生井主任

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
開 会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・会長挨拶 ・会議成立の報告 ・資料の確認 ・傍聴希望者の確認（傍聴人なし）
議事（１）「評価指標による評価結果」を踏まえての市の対応について（報告）	
議長	議事（１）「評価指標による評価結果」を踏まえての市の対応について、事務局から報告願いたい。
事務局	※資料 1 に基づき、「評価指標による評価結果」を踏まえての市の対応について、報告。
議長	何か意見、質問等はあるか。
議長	デートDV防止講座は、これまで 1 校の実施であったのが 3 校に増加したとのことだが、15 校全校での実施に向けて予算の上乗せはあるのか。
事務局	ふらっとが実施する分としては、令和 6 年度も 3 校分の予算を想定している。その他にも同様の事業として、教育委員会で開催する保護者向けの講座もある。
議長	予算面で実施が制限されることのないよう、3 校以上から希望があった場合の対応も検討をお願いしたい。
委員	<p>地元の中学校長に話をしたところ、そこでは既に別講師により実施していた。そのようなケースもあるので、実施は必ずしもふらっとが提供する講座でなくても良いのではないかと。</p> <p>また、低年齢のうちから、デートDVのような関係性に「NO」と言える意識を育て、何かあった時に問題として認識できることが目的であれば、学校独自の取り組みや家庭教育学級での実施も、指標の実績としてカウントしても良いのではと思う。</p>
事務局	<p>同様の事業を実施している他部署との連携を高め、より有効な実施に繋げていきたい。</p> <p>また、ご指摘を受けた点について、評価指標も検討していきたい。</p>
議長	学校でどれくらい DV 防止講座が開かれているのかを、教育委員会と連携して把握し、今後の施策の展開に繋げていけると良い。もう少し調べて、また報告してほしい。

議長	国や県が行っている SNS 相談とは、上手く連携出来ているのか。
事務局	国のDV相談+（プラス）や県のお悩みチャット@埼玉は、相談があると各自治体等に繋がれるようになっている。所沢市でも、実際に繋がれてきたケースもあるので、連携は取れていると感じている。
委員	評価指標2の女性委員の割合に関連して、会議の参加しやすさの観点から、オンライン会議の検討はどうか。
事務局	オンラインでの会議開催は通信環境の問題もあり、検討は進んでいない状況である。ただし、必要性は感じているので、今後検討していきたい。
委員	通信環境が整うと、ビデオ通話を利用した相談にもつながっていくと思うので、よろしく願いしたい。
議長	委員の皆さんは、オンライン会議となった場合は対応可能か。
委員	ハローワークは独自システムを使っており、外部とのオンライン会議は出来ないので、実施する場合は現地参加との併用でお願いしたい。
委員	自治連合会でも、コロナ禍にオンライン会議を試行したが、操作慣れに個人差があり、時間がかかってしまった。 女性委員の割合向上に関しては、「女性が手を上げやすい」とはどういうことか考えてみたが、そもそも女性が委員をやりたいと思っているのか、ということもある。サポート役を進んで引き受ける女性は非常に多いが、長になりたいという人は少ない。そうした意識を前向きに出来るよう、周囲が働きかけないと手が上がらないと思う。 数字として表れていなくても、実際は数字で見えている以上に女性は活躍しているので、そのことが分かるよう計画にも反映させていけると良い。
議長	最初は自発的に手を挙げるのは難しいので、周囲が女性を推していく仕組みを考えないと状況は変わらない。他の審議会の人選でも、女性の必要人数を事務局から伝える等、踏み込んだお願いをしても良いのではないかと。 また、次の計画策定時には、会議の回数も増えるため、オンライン会議の開催については、今から検討してほしい。
副議長	オンライン会議は、今後ますます活用が不可欠となる。最初は色々な不具合もあるが、今後も感染症の流行時に活用できる他、小さな子どもがいる人や移動がネックになる人等、様々

	な事情がある人にとって参加のハードルが下がるので、オンラインの併用は役に立ってくるだろう。
議事（２）第４次所沢市男女共同参画計画の中間見直しについて	
議長	議事（２）第４次所沢市男女共同参画計画の中間見直しについて、事務局から説明願いたい。
事務局	※資料２・３・４に基づき、第４次所沢市男女共同参画計画の中間見直しについて説明。
議長	何か意見、質問等はあるか。
委員	評価指標「性別による固定的な役割分担意識がない人の割合」については、現行の目標値を近年の実績値が上回るなど乖離があるため、見直しをしてはどうか。 一方、「公的な相談窓口相談しようとする人の割合」は目標値に対して実績値が低迷しているため、大きな改善策が見込めないようであれば、下方修正するべきではないか。
事務局	いただいたご意見を踏まえて検討したい。
議長	「性別による固定的な役割分担意識がない人の割合」を測る設問は、聞き方を変える必要があるかもしれない。 また、計画の目標値は設定にあたって無難な数値を載せがちで、設定の仕方に問題があることもある。そのため、そうした公的な指標だけでなく、この審議会内の資料として細かい指標を設け、その推移を見ていくことを同時並行で行っても良いのではないかと思う。軌道修正しにくくならないよう、次期計画策定のことも視野に入れて、指標を検討していけると良い。
委員	「就労している女性が正社員等である割合」の指標については、実績値も増減していることや、労働人口の減少に伴って多様な働き方が言われている中で、果たして達成可能な指標なのか、疑問に思う部分もある。
委員	福祉事務所ではひとり親の支援をしており、その半数くらいが貧困状態で、そうした人は非正規雇用の割合が多い。 ひとり親支援の観点からも、こうした目標はあったほうが良いと考える。
議長	困難女性支援法がこの４月から始まるが、支援側の体制が「これで大丈夫か」と思うところもある。例えば、「配偶者暴力相談支援センター」という名称では、DV 被害者ではない困難を抱える人は電話してこれるのか。名称や組織を変えることも含めた計画の見直しも視野に入れてはどうか。

	<p>また、この計画自体、法律を元に施策がぶら下がる形の建付にしているのは、現代の複雑化する問題を全てカバー出来るのか、心配もしている。</p>
委員	<p>埼玉県でも法の施行に伴い、体制を変更して困難女性支援の強化に努める予定である。</p> <p>困難女性支援は、これまで法の隙間で支援が行き届かなかったケースに対応していくものと感じており、県と市町村との連携だけでなく、民間団体との連携もポイントとなる。埼玉県は東京都内にあるような若年者支援に特化した民間団体はないが、今ある団体と協働して取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>所沢市にはそうした民間団体はあるのか。なければこれからどう育てていくのか考えがあれば伺いたい。</p>
委員	<p>民生委員として地域と関わる中で、不登校児童やひとり親家庭の増加と、学校からの連絡に応答がない家庭が目立つようになったと感じている。そうした困難を抱えている母親にはふらっと等を紹介しており、これは評価指標にも関わることであるが、窓口を知らなければ相談しようとならない。</p> <p>では、何処が一番身近な相談先となれるかだが、多忙な学校や地域での解決が難しいケースに対応することも支援課ではなく、こども食堂やフードパントリーをそうした存在に出来ないかと考えている。そして、我々はそのに来ていた様々な問題を抱える人を公的機関へ繋げようと努め、昨年あたりからは保健師へ繋ぐことも出来ている。</p> <p>ただ、アウトリーチに積極的な機関へは何とか繋がる事が出来ても、それ以外の窓口に繋がるには本人の時間的・心的余裕がないのではと感じているところである。</p> <p>こうした観点から、評価指標として取り入れられるものが何かないだろうかと感想を持った。</p>
副議長	<p>評価指標の実績から、多くの人が色々なことに困難をきたしていることを読み取り、対応していかなければいけないと思う。</p> <p>例えば、「性別役割分担意識がない人の割合」が増加しているにも関わらず、「就労している女性が正社員等である割合」では女性の正社員率が依然として低いということ。また、「『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』」をすべて大事にしている人の割合』は数値上高くないが、現実には「大</p>

	<p>事にしたくない」という人はいないと思う。さらに、「公的な相談窓口で相談しようと思う人の割合」と「男女共同参画推進センターふらっとを知っている人の割合」が同じように数値が低いのは、やはり相談する敷居が高いこと、「相談に来ることを誰かに知られたくない」、「子どもが何か言われるかもしれない」といった別の不安を引き起こしていることもあるだろう。</p> <p>そうしたことから、この数値を深刻に受け止めて、少しでも変わるよう現実的な対応ができると良いと考えている。</p>
議長	<p>難しい問題であるが、目標と現状のギャップをなるべく小さくしていくことが計画の意義でもあるので、やり方を変えることも含めて考えていく必要がある。計画に記載される公的なものとは別の指標も作っておき、他部署の施策に働きかけたり、状況を追いかけられる仕組みが出来ると良い。</p> <p>加えて、子育て支援については、父親に対する支援をしないと、母親が大変なままである。男性に対する施策でも、それをしないと女性の状況が改善しないこともしばしばあるので、そうした視点も含めて考えてほしい。</p>
委員	<p>「公的な相談窓口で相談しようとする人の割合」の市民アンケートの取り方は、女性が「悩んだり困ったりしたときに、ふらっと等に相談しようと思うか」と書かれているものなのか。</p>
事務局	<p>アンケート票には、そのように記載している。</p>
委員	<p>福祉事務所の観点での意見となるが、ひとり親で経済的、精神的な悩みがある等、複合的な悩みや困難があるケースも多くある。例えば相談内容も、「ダブルワークをしても給与が少ない」、「転職したい」というものや、身体の悩み等、多岐にわたっている。</p> <p>「公的な相談窓口で相談しようと思うか」の選択肢として、「ふらっとや埼玉県男女共同参画推進センターに相談しようと思うか」という聞き方だと、公的な窓口もその分野に限定して捉えられている可能性があるため、聞き方次第でもう少し高くなるのではないかと。</p>
議長	<p>アンケートの取り方は、今後の課題としても良いかもしれない。その他に何か意見等はあるか。</p>
委員	<p>アンケートで「性別による固定的な役割分担意識がない人の割合」を測るには、もっと具体的に「家の中でどういったこ</p>

	<p>とをしているのか」といった聞き方もあるのではないか。 また、公的な相談窓口に相談しようとする人の割合を高めるには、日頃からチラシ配布等の啓発活動を積み重ね、相談窓口の存在を知ってもらうしかないを考える。</p>
<p>議事（3）その他</p>	
事務局	<p>議事（2）に関連して、意見等がある場合は2月末までに事務局までお知らせいただきたい。</p>
議長	<p>何か意見、質問等はあるか。</p>
議長	<p>これで、本日の議事はすべて終了した。</p>
<p>閉 会</p>	

所沢市男女共同参画審議会 委員名簿

条例区分	ふりがな 氏名	選出団体・機関	出欠
第29条 第1号	まつかわ せいいち 松川 誠一	東京学芸大学	出席
〃	おさか えいこ 櫻坂 英子	駿河台大学	出席
第29条 第2号	にしかわ りょうこ 西川 涼子	所沢市PTA 連合会	出席
〃	みはら ゆきこ 三原 由紀子	所沢市自治連合会	出席
〃	さいとう ちさと 齋藤 千里	所沢市連合婦人会	出席
〃	みかも ひさのり 美甘 寿規	所沢市社会福祉協議会	欠席
〃	あさだ まもる 浅田 衛	所沢人権擁護委員協議会 所沢部会	出席
第29条 第3号	ひらばやし ひろかず 平林 浩一	埼玉県西部福祉事務所	出席
〃	のぐち とおる 野口 徹	埼玉県所沢児童相談所	欠席
〃	いしい けんじ 石井 健司	所沢公共職業安定所	出席
〃	おくのき ともこ 奥ノ木 智子	埼玉県男女共同参画推進セ ンター	出席
第29条 第4号	ふじわら ありさ 藤原 有紗	公募	欠席
〃	いごう ゆうこ 猪合 裕子	公募	出席
〃	なかはら ゆうすけ 中原 悠介	公募	出席